

自由に討論できる場を

部長 上野 弘

昨年から今年にかけての世界的な話題は、なんと言ってもアメリカのトランプ大統領の誕生でしょう。選挙運動期間中から過激な発言がニュースとなり、移民排斥やTPP問題さらに防衛論議など国を二分するほどの話題になっています。

アメリカは多くの移民を受け入れた歴史があり、その結果として世界の大国として発展してきましたが、あまりにも多くの移民を受け入れたことで、その弊害が生じつつあります。人道的な立場をとり続けるか、経済発展を考慮し今後移民を制限するのか、厳しい選択を迫られています。大人でも議論が分かれる移民問題について、日常会話で語ることのない原発の是非についてなど、子供たちが知りうる知恵を絞ってぎくばらんのように語られるような場所ができればと、新年度の活動計画で考えているところです。

青少年育成協議会が校区のコミュニティとしてスタートしましたが、これからは子供たちの健全育成を目指していきたいと思います。

和菓子作り体験を通して

重富小学校 PTA 会長 鹿子木 巧

毎年募集開始からすぐに定員に達してしまう程、多くの児童が楽しみにしている和菓子作り体験が今年も行われました。夏らしく「花火」をテーマに子供たちは思い思いの花火を、大変暑い最中でしたがそれも忘れてしまう程熱中して練り切りで自分の思い描く花火を表現していました。完成した作品はどれも個性的で、繊細で、大人では発想の出来ないようなものばかりでした。家に帰って、自分で作った和菓子の説明をしながら笑顔で食べている光景が目につかびます。

毎年、大変忙しい中このために準備をし、和菓子を広めたいという思いで様々な学校で体験を行われている「あじ福」の岩川さんには心から感謝しております。この体験を通して、和菓子の魅力に気付いた子供も多くいると思いますが、教えてくださる方が陰で努力をされている事も伝わっていると嬉しいです。これからも子供達とともに様々な体験を通し、人間形成の一役を担えたらと思います。



「サンテやまだ」を訪問して

重富校区コミュニティ協議会副会長 高味 英毅



平成 28 年 12 月 26 日、小学生 3 人、中学生 3 人を引率して、上水流地区に新設された知的障がい者就労支援施設「サンテやまだ」を訪問しました。はじめに施設長からこの施設の概要について話があり、子ども達は真剣に聞いていました。自分たちの身近にこのような施設があることに驚いてもいたようです。その後、交流体験ということで「正月用のしめ飾り」に使うちりめん細工の梅を作りました。細かい作業にもかかわらず、一生懸命作りきれいなしめ飾りができ上が

りました。昼食は施設の全員の方と机を囲んで楽しく食べ、交流を深め、子ども達は自分の生き方に何かを感じとってくれたと思います。それが他人への思いやりや感謝の心ということ。人は一人では生きていけません。「赤く咲く花も 緑の葉っぱに助けられ」の言葉のように、これからも交流を図りながら、子どもの健全育成に向かって取り組んでいきたいと思ひます。今後も地域の力を貸してください。

昔遊び体験

あいらっ子見守り隊 岩下 陽太郎

平成 29 年 1 月 29 日 (木)、重富小 1 年生「冬遊び (昔遊び)」という授業に地域の方 11 名が参加し、児童と保護者に対して昔遊びの説明や体験活動を行いました。

8 つのグループに分かれて、おはじき、カルタ、めんこ、まりつき (わらべ歌)、あやとり、お手玉、紙飛行機、けん玉の説明と使い方を教えて一緒に遊びました。

子どもたちはそれらを目にした事はあっても、作ったり、使ったりしたことがないものも多いようで、とても興味を持って、私達の説明を聞きそして体験活動も積極的に参加していました。また授業参観と同時に行われた為、保護者も一緒に参加しており、種類によっては初めて体験された方もいらして、子ども以上に楽しんでいる方もいました。この活動はこれまでも継続して続けられており、素晴らしい活動だと感じました。今後はもっとこのような遊びを知らない人たちも増えてくるので、これからも続けていくことで子どもたちに貴重な体験を与えていけると思ひました。

青少年の主張



副部長 柿元 千代子

平成 29 年 2 月 18 日 重富校区の「少年の主張発表会」が開催されました。

ご家族や地域の方々の見守る中での開催で、皆さんが楽しみにしている大会です。

第 35 回と聞いて、その伝統の重さと地域の絆の強さを感じます。子ども達は地域によって育まれることの実証です。関わってこられた皆様のご尽力に感謝申し上げます。子ども達には日頃思っていることや感じていることを発表して貰いました。

発表態度も堂々として、自分の主張がはっきりしていたことが何よりよかったです。人前で発表することの体験を通してたくさんのことを学んだことでしょう。友達とのおしゃべりでなく「主張する」ことの緊張感と責任感はこのからの人生の中で貴重な経験として生きていくものと思います。子ども達の主張には「自分がしっかりしていないと何もできないこと」「自然を大事にすることの大切さ」「人間らしく生きることへの強い思い」「家族との絆」「自分の勉学のこと」等が素直に語られ、私自身も多くのことを教えられ、考えさせられることでした。そして子ども達の大きな成長の一端を見る思いがしました。改めて聴く機会を設けてくださった関係者の皆さんに感謝致しますと共に発表会がさらに発展していくことを期待致しております。

発表者と題名

小学校

5年	大田 楓子	私とアーチェリー	榮 ちひろ	赤い羽根共同募金
	原 有紀	大丈夫? その一言	新垣 百音	救える命
	中園 すず花	いつか私にもなにかできるために	福田 みなみ	大好きな自然のために
6年	大寺 彩衣子	私とバスケットボール	福留 舞	あきらめない心
	石原 まりん	私にもできること	西田 惟香	ありがとうを伝えたい
	居迫 真央	将来の夢	宮脇 苑央	相手を想う

中学校

1年	宮脇 美空	胸を張って言えること	中本 華帆	新しい家族と生死
2年	澁谷 翠	変わるきっかけ	笹原 奈月	私の相棒



あいらっ子見守り隊

上野 弘

年間を通じて子供たちの挨拶の様子はとても良いと感じられますが、冬場はポケットに手を入れて登下校している姿もあり、特に低学年では友達同士で急に駆け出して、倒れて顔面を強打するのではと心配させられることがあります。

先日重富中学校で生活指導連絡会があり、中馬クリニックから尾畑歯科までの道路には横断道路がないので改善して欲しいとの要望が出されているとの報告がありました。

これは「重富地区の民生委員が数年前に提案したことで、いまだに改善がみられないのですか」と厳しい指摘がなされました。

小学生の通学路でもあるので子供達の安全の為に一刻も早い改善を望みます。一学期に2回の見守り隊の定例会ですが、毎回皆さんの的確な情報を持ち寄ってくださり本当に充実した1年の活動であったと思います。ご協力有難うございました。来年度は中学校近辺も含めた見守り活動に協力していただける方も募集したいと考えています。ご協力していただける方は上野、または教頭先生までご連絡ください。

地域で子供を育てることの大切さ

重富小学校長 茶圓 正幸

鹿児島の教育的風土の誇れるものの一つに「他人（人）の子もわが子もみんな地域の子」という考えがあります。これは子どもを地域ぐるみでしっかり育てようというものです。

誰にでもあいさつができる子、正しくコミュニケーションができる子、周りにやさしさを思いを届ける子・・・など、これら人として当たり前の育ちを確かにするためには家や学校だけではどうしても限界があります。なぜなら、言い聞かせたり、教育しただけでは、本当の意味の力は身につけません。

実際に体験することが大切であり、自由に子ども同士が交流できる、正に地域こそがその重要な役割を担っています。

地域には、地域の文化や豊かな自然、地域の言葉（方言）同年代や先輩、後輩、赤ちゃんから高齢者までの多様な人々など、学べる教材がたくさん存在します。

子どもたちは、好き嫌いにかかわらず、それらと関わり、順応していかなければなりません。

それは正に自分の住む限られた小さな社会で何度も訓練し、将来大人になって本当の厳しい社会に出たとき、どんな困難に遭遇しても、誇りと自信を持って乗り越え、生きていくための一つのプロセスです。

人が生きていくということは、未知のものとの出会いのくり返しに違いありません。

地域皆で、地域の子を育てるといふ、何と合理的で素敵なことではないでしょうか。

子どもたちを是非、地域活動に積極的に出席させてください。

子どもたちは、「いやだ」「きつい」「つらい」などというかもしれません。でも出席してみると意外と楽しいもので、時間が経つのも忘れて活動します。

家の中だけでゲームやテレビ、漫画や本をみるだけでは決して得られないものがたくさんあります。